

表1. 生育特性

場所 ¹⁾	品種名	発芽期 (月日)	初期生育 ²⁾	絹糸抽出期 (月日)	稈長 (cm)	着雌穂高 (cm)	倒伏 個体率 ³⁾ (%)	すす紋 病 ²⁾	ごま葉 枯病 ²⁾	根腐病病徴発生率 (%) ⁴⁾		收穫時 熟度 ⁵⁾	有効雌 穂割合 (%)
										收穫前	收穫時		
北見農試 (3か年)	P7948	6.04	7.2	8.03	270	116	-	1.0	1.0	0.0	0.0	黄熟初期	103.3
	KD320	6.04	7.0	8.02	259	131	-	1.0	1.0	0.0	0.0	黄熟初期	100.7
畜試 (3か年)	P7948	5.27	6.4	7.29	291	119	8.6	1.9	1.6	5.0	3.3	黄初黄中	101.7
	KD320	5.28	6.4	7.29	260	114	5.1	2.2	1.4	1.7	0.0	黄熟初期	100.6
農試平均	P7948	5.31	6.8	8.01	281	118	8.6	1.5	1.3	5.0	3.3	黄熟初期	102.5
	KD320	6.01	6.7	7.31	260	122	5.1	1.6	1.2	1.7	0.0	黄熟初期	100.6
鹿追町 (2か年)	P7948	5.22	5.0	7.28	290	133	0.9	1.3	1.8	0.0	0.0	糊後黄初	102.5
	KD320	5.22	4.9	7.28	260	118	0.6	1.0	2.0	0.0	0.0	黄熟初期	100.0

1) 場所別の値は北見農試および畜試3か年(2020年-2022年)、鹿追町2か年(2021年-2022年)の平均値。

2) 初期生育は1:極不良-9:極良、すす紋病およびごま葉枯病は1:無-9:甚による観察評点。

3) 折損も含み、倒伏または折損がいずれかの品種で発生した年次のみの平均値である。「-」は未発生を示す。

4) 收穫前は根腐病による萎凋、下垂、倒伏を含む。收穫時は0が健全、1が飴色ないし褐色に変色、2が飴色ないし褐色に変色しかつ空洞化の発生を認めたとした場合の評点による1および2の合計。いずれかの品種で発生した年次のみの平均値である。

5) 「糊後黄初」は糊熟後期~黄熟初期、「黄初黄中」は黄熟初期~黄熟中期の間であることを示す。

表2. 収量特性

場所	品種名	10a当たり収量 (kg)						乾物率 (%)			乾雌穂 重割合 (%)	乾物中 推定TDN (%)		
		生 総重	同左比 (%)	乾物重		同左比 (%)	推定 TDN	同左比 (%)	茎葉	雌穂			総体	
北見農試 (3か年)	P7948	6454	92	914	1213	2127	100	1563	103	21.5	56.7	33.5	57.2	73.6
	KD320	6989	100	1060	1070	2130	100	1526	100	21.3	55.4	30.8	50.2	71.6
畜試 (3か年)	P7948	5813	102	819	954	1773	108	1288	109	20.7	52.9	30.7	53.8	72.6
	KD320	5706	100	790	855	1645	100	1186	100	19.9	50.2	29.0	51.9	72.1
農試平均	P7948	6134	97	866	1084	1950	103	1425	105	21.1	54.8	32.1	55.5	73.1
	KD320	6347	100	925	963	1887	100	1356	100	20.6	52.8	29.9	51.1	71.9
鹿追町 (2か年)	P7948	6959	106	867	951	1818	111	1313	112	17.1	50.0	26.1	52.4	72.2
	KD320	6571	100	840	802	1642	100	1171	100	17.2	47.7	25.0	48.8	71.3

注) 推定TDN収量は新得方式(推定TDN=乾物茎葉重×0.582+乾物雌穂重×0.850)で算出した。

表3. 病害抵抗性に関する特性検定試験結果(北農研)

品種名	すす紋病 (1:無~9:甚) ¹⁾						ごま葉枯病 (1:無~9:甚) ²⁾		
	2020		2021		平均	判定	2021	2022	平均
	9/4	判定	8/28	判定			9/22	9/21	
P7948	4.5	強	4.3	かなり強	4.4	かなり強	6.3	5.0	5.7
KD320	5.0	中	6.2	中	5.6	中	6.0	4.0	5.0
ダイハイゲン (基準品種)	6.3	弱	7.2	弱	6.8	弱	7.7	6.0	6.9
39H32 (基準品種)	5.2	中	6.5	中	5.9	中	-	-	-
ビエナ (基準品種)	4.2	強	5.2	強	4.7	強	-	-	-

1) すず紋病抵抗性検定試験は試験区2畦に対し感染源系統1畦を配置し、感染源系統に粉碎罹病葉の懸濁液を接種して感染源とした。すす紋病抵抗性“強”~“弱”の基準品種との比較により“極強”~“極弱”の範囲で判定を示した。

2) ごま葉枯病抵抗性検定試験は直接検定系統に粉碎罹病懸濁液を接種した。相対評価のため、ごま葉枯病抵抗性強弱の判定はない。「39H32」および「ビエナ」は供試していない。

詳しい内容については下記にお問い合わせください
 道総研北見農業試験場 研究部 馬鈴しょ牧草グループ
 電話 0157-47-2633 FAX 0157-47-2774
 E-mail kitami-agri@hro.or.jp